

◆ 歴代議長座談会 ◆



初代議長 下島 省吾 氏



二代議長 中村 威夫 氏



三・四・五代議長 伊藤 泰雄 氏



現議長 黒河内 浩 氏

田 畑 皆さんこんにちは。本日は第4回の記念誌作成委員会に併せ、平成18年3月に旧伊那市、高遠町、長谷村が合併してから今日に至るまでの歴代議長の皆さんにお集まりいただきました。お忙しい中、ご対応いただき誠にありがとうございます。合併以降、その時々伊那市の出来事や議会改革等、ご苦労された生情報をお聞かせ願いたいと思っています。本日は昨年4月に新たに市議会議員になった8名全員が同席させていただき、過去の様々な取り組みについて勉強したいと思っていますので併せてよろしくお願ひいたします。それでは黒河内議長よりごあいさつをお願いし、対談に入らせていただきますのでお願ひいたします。

黒河内 今年で平成も終わるといふことで、18年に合併してからここまでの間、伊那市議会が一步一步進歩してきた過程、苦労してきた過程、問題点にぶつかってどうやって対応してきたかを初当選議員たちにも分かってもらいたい、そういう意味で記念誌を作るに当たって、3議長に関わっていただきながら今後の伊那市議会のさらに将来の進むべき道を我々現職の議員が議論していきたいと思っています。よろしくお願ひいたします。

田 畑 では早速ですが合併時の議長でありました下島省吾さんからお願ひいたします。

下 島 平成18年合併時の議長をやりました下島省吾です。合併前の2年間、議員数を決める委員長をやりました。人口からいくと長谷が1人、高遠が2人、伊那が22人という中で、最終的には委員長の私が決断し、当初の議員数になったわけです。私が伊那市の初代議長になった時に一番先にやるべきと考えたことは、地域のエゴにとらわれず一体感のある議会運営をしようということです。それが1つ一番大きな仕事。それからもう1つは議場に伊那市の旗と日の丸を掲げようと提案したことです。

黒河内 今、下島さんから話があった、人口比でいくと旧伊那市が22人、高遠が2人、長谷が1人の議員定数の配分になるという中で、そうではない結果になった。一番苦労されたのではないかと思います、その苦労のところ少し突っ込んだ話があれば。

下 島 伊那市がね、24人だったのを18人に減らすといふことでね、伊那市の議会をまとめるのに非常に大変だった。それでも長谷や高遠のことを思って、住民代表の方々の意見もあり、委員長の決断で3人と5人に決めたわけです。大変だったね。夜も長谷や高遠に行って、長谷の議員の代表、高遠の議員の代表と何回話し合いをしたか分からない。

黒河内 高遠・長谷も減らすなという意見が強かったけど、旧伊那市も24人を18人に減らすのは、そんなに減らさないとならないのかという意見はかなり強くて、議会の中でも色々な意見がありましたよね。

下 島 共産党の方に一番叱られたことを覚えております。熱心な真面目な議員だった。

黒河内 それを引き継いで中村さんの議長に移っていくわけですけど。

中 村 議長になる前にね、私は下島議長の下で総務委員長を担当しました。下島議長が言われたように一体感をいかに持っていくかということに私も気配りをしなければと思いました。6月の定例会をどう乗り切ろうかと思っていた矢先に、伊那市の歌を旧伊那市の歌に

するようにという陳情が出され、もう一つ、風力発電建設に反対するものが出された。伊那市の歌について議長と相談し、6月議会で結論が出る問題ではないから継続審査とし、最終的には9月議会で趣旨採択になった。

黒河内 大きくもめたのが風力発電の問題で、議会内でも市民の間でも大きな議論になり、その時に委員長という立場で苦労されたので、そのあたりの話も。

中 村 6月議会では結論が出ないから継続審査ということで進め、9月議会に審議をしたわけです。鹿嶺高原の尾根に作ることがいいのかと。総務委員会で協議し、岩手県の釜石市へ視察に行き、色々と検討した結果、12月の総務委員会で風力発電は中止すべきであるという結論が出たが、最終日の本会議場では委員長報告が否決された。私は議長と相談して市長に、当日午後に全員協議会を開き、市長として、伊那市としての結論をきちんと出すように話をした。それで全員協議会で市長は反対だという表明をして、その時には色々罵声があったりもしましたけどね。もしあそこにあの大きな風車が立っていたら伊那市の景観はどうなっていたか、下島議長の協力を得てやって良かったなど、そんな思いを持ちました。

黒河内 平成18年からの中で一番議論が大きくなってもめた事案かなと思います。委員会での採決が本会議でひっくり返り、さらに市長の判断でやめますということで収束したというものです。それともう一つは定数をさらに減らさなくてはいけないという問題で、下島議長の時に特別委員会の委員長が中村さん。定数については合併協議の中で次は減らすということが決まっていた、幾つに減らすかということが議論になり賛否両論あった。

下 島 これも大変なことだった。

中 村 平成18年6月定例会の中で設置され、特別委員会を9回、市内での説明会を12回行い、さらに行政視察もして21人という数字を出したわけです。本当に定数問題は大変な問題でした。

黒河内 あの時に26人、23人、21人と3つの意見が出て、その中で21人におさまったんですけど、最終的にはほぼ全員が21人で賛成して、反対したのは共産党だけだったのではないかな。

伊 藤 あの時ね、23人という声も多かったんだよ。ところがその少し前に飯田市が23人で決まったわけ。10万都市の飯田市が23人で伊那市が同じというわけにはいかないだろうと、21人でしようがないという流れがあった。

黒河内 そうですね。共産党を除いて皆21人で賛成した。

中 村 その時はね、駒ヶ根市が26人に対して15人、それから諏訪市が30人で23人、飯田市も23人になったから伊那市が21人にしようということですけど、20%も削減して民意を代弁できるかなという反省はありました。

黒河内 色々な思いがありますが、あの時は26人から21人までよく減らしたというのが大方の市民の意見だったように思いますけど。

中 村 個人的にも手紙をいただいてね、よくがんばったと言われましたけどね。

黒河内 ここまでが合併後落ち着くまでの取り組みになるわけですけど、その後、中村さんが議長の時に大きな問題となったことがあればそこを。

中 村 私が議長になるについては対面式一問一答方式を導入しようと議場で公約したわけです。

黒河内 そうですね、中村さんが議長の時に一問一答を取り入れて、今はほとんどの議員が一問一答でしている。

平成18年に合併してから前半下島議長、後半中村議長ということで4年間やって、22年の選挙、この時が初めて21名での選挙で、その時にお二人は引退をされてその後、伊藤議長になるんですけど。伊藤議長の話ができればと思います。

伊 藤 あの当時、議員のなり手がなくなるとか、関心が薄いという声があって、全国的に改革の動きが強くなってきたんだよね。その時に改革特別委員会を設置して基本条例を制定し、その後、倫理条例も。基本条例の中に市民との意見交換会をやるという条項があったので27年から始めたんです。また若い議員達から一般質問をもっと世間に知らせるためユーチューブをやったらいんじゃないかと聞き、色々研究して、今ユーチューブにあげて、いつでも一般質問が見られるようになりました。それから28年度にタブレットをやってみようと、ペーパーレスの問題もあるし、色々調べられるからということでやった。委員会や本会議場に持ち込んでもいいからね。

黒河内 伊藤議長の時代に議会基本条例と倫理条例、もう一つ、議員が長期間欠席した場合、給与を減額するという条例もね、大きな条例を3つ作って、議会としてしっかりやらなければいけないという体制を示したのと、市民と議会との意見交換会を実施するようになり、それを基に政策提言まで結びつくような形になっている。それから議会中継をユーチューブですることになって、今度の3月議会からは委員会も流そうということで、議員の発言も非常に重視して見られるし、また答弁する側も緊張感をもってやるかたちも必要だろうということだね。合併後を振り返ると、3市町村の一体化に向けて、初期は苦労された事案がかなりたくさんあったわけですけども、何とか落ちついて一体感も醸成されて、いい方向に結びついてく中で、伊藤議長の時代に次なる改革というか、どうあるべきかというのを皆で議論しながら、一步一步進んできたのかなという感じがします。ほかに何か歴史を振り返る中で。

中 村 今市長に反問権を与えているでしょ、この反問権を恐れて消極的な対応してほしくはないというふうに私は思いますね。

黒河内 反問権も基本条例を作るときに盛り込むか盛り込まないか議論になったんですけど。盛り込むべきだという総意で盛り込んできたわけですけどもね。ここまでは大きな流れで一段落することにして、委員のみなさんの方からあそこのところはもう少し振り返って聞きたいというようなことがあれば。どうですか。

田 畑 どうですかね、今、熱い思いの話をお聞きしたのですが。

原 風力発電の件ですが、総務委員会の案が否決をされて、本会議場のその場で市長が反対を表明されたんですか。

中 村 そうではなくて閉会した午後の全員協議会。

黒河内 案ではなくて請願陳情に対して賛成か反対かという決議がひっくり返って、最終的には市長がやらないという方針を出した。

原 全協の時はどのような格好で始められたんでしょうか。

中 村 いったん12月議会を閉会して、午後全員協議会を開催した。

飯 島 本会議場で茶番劇だとか色々声があった。

黒河内 風力発電以外の話は。

田 畑 議会だよりは伊藤議長の時から発行し始めたんですか。

伊 藤 あちこち視察に行った時に、議会だよりだけで独立して出している議会も多いが見てもらうには市報の中へ入れた方がいいんじゃないかと。

田 畑 その前は別冊で出ていたんですか。

- 伊 藤 何も出てない。
- 黒河内 あの時はね、何らかの形のものを出そうと意思統一されていて、どういう風に出すかということで議論があった。市報と議会は相いれないものではあるのだけど、市民のみなさんに目を通してもらうためには必要だろうと。そのかわり毎月出そうという形、あれは反対意見がなくて全員の総意だったですよ。
- 伊 藤 編集委員会も立ち上げてね。それで各委員会で交代したり、色々考えながら。定例会の後はその特集になるね。
- 黒河内 編集委員をどういう構成で出すかが議論になってね、会派から1名ずつ出すか、それとも委員会から出すかという中で委員会からのほうが委員会報告ができるだろうと、で副委員長が妥当であるということで副議長がトップをやってもらうことになりましたね。
- 飯 島 苦勞してますけど。
- 黒河内 議会として活動しているという姿勢を知らせていかなきゃいけない。
- 馬 場 一言ずつでもいいんですが、歴代議長さん達から我々新人議員だけじゃなく、伊那市議会に対してこれは課題だよ、これはみんなの宿題だよというものがあればお聞きしたいなと思うんですけど。
- 中 村 私は辛口になるけど、職員からなめられるような議員にはなってほしくない。そうするにはやはり勉強してもらわないと。せめて地方自治法や伊那市議会会議規則くらいはマスターして議場へ臨んでいただきたい。
- 下 島 市民全体に意見を聞くことが大事だけどね、後援会の意見を聞いて、市政へ反映することも大事だね。議員が伸びてく一つの材料だね。
- 伊 藤 やはりそれぞれ、何か一つだけは絶対やるんだという目標をもってね、達成したいっていうことを。
- 田 畑 ほかにはよろしいですかね。では、大変貴重なお話をありがとうございました。それでは池上議員、御礼のあいさつをお願いします。
- 池 上 本日は伊那市合併後の初代の下島さん、中村さん、伊藤さん、それぞれ、現職の黒河内議長も含めまして、初めてお聞きする驚くような話も交えて聞かせていただきました。心から御礼を申し上げたいと思います。ありがとうございました。

(敬称略)

〈出席者〉

歴代議長

現副議長 (飯島 進)

記念誌作成委員

田畑 正敏

池上 直彦

小林 眞由美

馬場 毅

原 一馬

松澤 嘉

三澤 俊明

宮原 英幸